

仏足跡歌碑

この石碑の記念碑には、仏足跡の美德を記す 21 の和歌が刻まれています。1952 年に国宝に指定された記念碑は、仏足石に付随するように作られたとよく言われるが、その見方を実証する歴史的な文書はありません。日付も刻まれていないが、歌の様式と漢字の使われ方から、一部の人間は 770 年頃に遡ると考えるようになったが、他の人はそれが天平時代（729-749）に作られたと考えています。高さ 188cm、幅 47cm の石碑は長年にわたってある程度の損傷を受けており、実際、特に右と左の端の近くに刻まれた文字は判読できません。さらに、ある時点で、これらの損傷部分に文章が追加されたようで、その例は記念碑の右上や、左下にある和歌の最後の節に見て取れます。各歌は、5、7、5、7、7、7 の音節形式に分割された 38 の文字で構成される、独自のリズム構造に従います。それぞれが、万葉仮名で書かれています。万葉仮名とは、現在とは違い、漢字が意味ではなく音を表すために用いられている、古代日本の五十音です。万葉仮名は、奈良時代（710～794）に編集された日本最古の和歌の歌集、万葉集で使用されました。詩の 1 つの例（16 番）は次の通りです。

この御跡を 廻りまつれば 跡主の 玉の装ひ 思ほゆるかも 見る如もあるか